

「情報活用」授業運営モデルの組織的な開発と実施

近藤 伸彦*1・本田 直也*1
Email: nkondo7@otemae.ac.jp

*1: 大手前大学現代社会学部

◎Key Words 情報活用力, 授業運営モデル, 統一カリキュラム

1. はじめに

社会で要求される情報活用力の育成のため、大手前大学（以下、本学）では初年次必修科目「情報活用」を設定している⁽¹⁾。多様な学生に対してより高い教育効果を上げるための授業運営モデルを開発し、本モデルに基づいた授業を実施してきた。

本科目は統一カリキュラムに基づき複数クラスを同時展開している。教科書、LMS や e ラーニングシステム等の教材一式は株式会社ワークアカデミーと共同開発を行っている。全クラス共通の授業計画や毎回の課題の作成などは科目コーディネーターを中心として行われる。授業前後には担当教員による FD を行い、授業の報告や教育方法についての共有や議論、授業計画や教材のブラッシュアップを行う。統一的な授業運営のため、出欠や課題提出状況は学習支援センターが一元管理する。また、本授業運営モデルの教育効果測定や評価などは本学附置の CELL 教育研究所において研究報告される。

本稿ではこのように組織的に開発・実施されている本授業運営モデルについて述べる。

2. 「情報活用」授業運営モデル

2.1 統一カリキュラム

「情報活用」は、「日本語表現」「英語表現」「フレッシュマンセミナー」となる初年次必修科目のひとつである。本学は Semester 制を採用しており、「情報活用」は初年次の春学期・秋学期にそれぞれ開講している。いずれも、一学年およそ 800 名の学生すべてに対して統一のカリキュラムでの授業運営を行っている。

春学期は、大学生活において必要不可欠なコンピュータ・スキルを身につけることを目標としている。具体的には、学内ネットワークの利用方法、メールの利用方法、文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基礎的なスキルを身につける。また、PC の利用上必須のスキルとしてタッチタイピングの習得を目指す。

秋学期は、春学期に身につけた基礎的なスキルを社会で実践的に「活用」するための知識・能力を身につけるための学習を行う。学習内容は、情報検索、情報運用、数値分析、データベース、ファイル・データ管理、インターネットコミュニケーション、文書表現、ビジュアル表現、プレゼンテーションとなる。

教材・課題の選定や作成は科目コーディネーターが行い、科目担当の全教員への連絡など、全クラスで統

一の授業が展開されるための調整を行う。

また、「情報活用」以外の初年次必修科目との連動も必要に応じて行う。「情報活用」は「全学生が PC を使用する時間」として他科目と連携を取るのである。

2.2 検定試験

期末試験には、明確な到達目標の設定と、そのクリアに向けた学習計画を立てて遂行していくことを体験し身につけてもらうために、検定試験を導入している。春学期は、学習内容のうち大きな割合を占める文書作成ソフトの基礎スキルとタッチタイピングの成果を測るために、NPO 法人 ICT 利活用力推進機構が主催する「日本語ワープロ技能標準試験」を受験する。秋学期末の試験には、同機構の主催する情報活用力診断テスト「Rasti」を採用している⁽²⁾。この「Rasti」は ICT 利活用場面における判断力、問題解決能力を診断するための Web ベーステストである。「Rasti」は秋学期末試験として受験するだけでなく、春学期第 1 回の授業においても受験し、1 年間の「情報活用」の成果を点数の伸びにより測定するという目的もある。

2.3 到達目標別コース分け

大学生の学習意欲や学力の多様化は、情報教育においても例外ではない。高校までの情報教育の質の違いや、学校・自宅での PC 環境の違い、さらには学生本人の PC への関心の高さの違いなどにより、入学時点での情報リテラシーや情報機器に対するスキルはさまざまであり、統一の授業計画でそうした多様な学生ひとりひとりに適切な学習を促すことが困難になってきた。

そこで、異なるレベルの到達目標を掲げ、授業の進度や課題の達成目標が異なる 3 つのコースを設け、学生自身が到達目標に従ってコースを選択するというシステムを構築し、2008 年度より実施している。学力や何らかのテストの結果によりコースを振り分けるのではなく、学生自らが目標を設定し責任を持ってコース

表 1 コース別到達目標

学期	コース	到達目標
春学期	A	日本語ワープロ技能標準試験 2 級合格
	B	上記試験 3 級合格
	C	3 級合格を目指してスキルアップ
秋学期	A	Rasti 550 点
	B	Rasti 500 点
	C	Rasti 450 点

を選択するところが特徴である。春学期・秋学期それぞれのコース別到達目標を表1に示す。

2.4 FD

「情報活用」は、月・水・木・金曜の週4日、1,2限に3クラス同時開講している。一学年およそ800名を計24クラスに分け、1クラス最大50名程度でクラスを編成している。複数教員が統一カリキュラムに基づいて授業を行うにあたり、学習目標・授業内容の確認やその他の情報共有の必要がある。そのため、毎回授業の前後10～30分程度を利用し、その日の担当教員によるミーティングを行っている。

授業前のミーティングではその回の授業内容の確認や、同一週の前曜日までの授業の報告などを行う。授業後のミーティングでは、その授業で行った授業方法の共有や、問題点の報告などを行う。こうした授業前後のミーティングが、日常的なFDの場としても機能している。

学期末にはWebでの学生アンケートを実施する。このアンケートは教員・授業への評価と学生自身の学習状況に関する項目から構成される。学期の前後には担当教員によるFDを行い、これらのアンケート結果や、教員が授業において行っている工夫や気づきを共有し、「情報活用」全体としての教育力向上を目指している。

2.5 学習支援センターとの連携

本学では、学生の自己学習を最大限に支援するために学習支援センターを設置している。授業での習得が不十分だった点や、課題に取り組むうえで困難な点は、自習室に常駐しているチューターが支援する。

出欠状況は授業後のミーティングで各教員からコーディネーターへと伝達される。出欠状況、課題提出状況といった学習状況は、学習支援センターのスタッフやコーディネーターによりデータベース化され、一元管理される。この学習状況データは、PC・携帯電話の両方に対応した独自開発のLMS「確認くん」を通して、学生・教員双方が確認できる。これは「情報活用」だけでなく他の初年次必修科目も同様であり、ひとつの科目のみならず複数の科目から学生の学習状況を把握することができる。さらに、出席状況や授業中の学習態度などにおいて問題があると思われる学生についてはスクールカウンセラーへの報告を行い、電話連絡や授業見学、個人面談といった個別対応を取るなどの対策を取っている。

2.6 教材・授業計画の共同開発

春学期のテキストには「繰り返して慣れる！ スピードマスター Office2007&情報モラル」および「日本語ワープロ技能標準試験過去問題集」を採用している。秋学期のテキストには「考える 伝える 分かちあう情報活用力」を採用している。また、「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」はテキストの内容と連動したLMS「NEST」がセットになっており、セクションごとの学習内容の確認テストや課題提出、個別メッセージ、掲示板などの機能がある。さらに秋学期には、情報活用力の基盤となる力「ICT基礎知識」「論理力」「数

理力」を向上させるためのeラーニング「Rasti-Learning」を課外学習として活用する。テキストに即した授業と課題および「Rasti-Learning」により情報活用力の向上を目指し、これが「Rasti」の試験対策ともなる。

これらの教材は株式会社ワークアカデミーとの共同開発を行っている。授業運営していくうえで、教材の気になる点やさらに良くするための提案などをコーディネーターが担当教員から収集するなど、実際の授業運営を通してのフィードバックにより教材のブラッシュアップを行う。

2.7 実践結果等に関する研究・評価

本授業モデルにもとづく授業の実践結果は、本学附置のCELL教育研究所にて研究・分析する。本授業運営モデルにもとづき実施してきた授業の結果・実績をまとめ、大学内外へ報告・紹介することで本モデルの評価や改善につなげていく。

2.8 これまでの取り組みの成果

これまでの成果の一例として、春学期の期末試験に設定している日本語ワープロ技能標準試験の合格率（対受験者）と合格者数を表2に示す。年を経るごとに合格率が上がっているようすがわかる。

秋学期末の「Rasti」の受験結果については、本カンファレンスの別稿『「情報活用」授業実践における学生の能力向上を促す要因分析』（発表：本田直也）にて詳しく分析し報告しているため、そちらを参照されたい。

表2 日本語ワープロ技能標準試験合格率
(カッコ内は合格者数)

学期	コース	3級	2級
2008	A	99.3% (145名)	91.3% (115名)
	B	92.2% (439名)	83.5% (71名)
	C	41.1% (62名)	受験者なし
2009	A	100.0% (171名)	97.2% (140名)
	B	94.8% (385名)	93.6% (44名)
	C	56.8% (92名)	100.0% (4名)

3. おわりに

本学の初年次必修科目「情報活用」は、統一の授業計画と教材、検定試験、授業前後のミーティングやアンケートを通じたFDなどを含む授業運営モデルであり、外部企業との教材の共同開発、学習支援センターとの連携など、組織的な開発と実施を行っている。

多様な学生に対し、大学での学びと社会で活躍するための情報活用力を身につけるための授業運営モデルとして、さらなる改善を目指していきたい。

参考文献

- (1) 本田直也, 近藤伸彦, 吉川聡: “大学の初年次必修情報科目におけるICT活用力の育成”, PCカンファレンス2009年度全国大会, pp.265-268 (2009).
- (2) 情報活用力診断テスト Rasti, <http://rasti.jp/>